



現場と一体となった安全施策のさらなる推進



株式会社SYSKEN

1. はじめに

平成29年度は、SYSKENの新たな中期経営計画「わくわく チャレンジ！ 2020」のスタートとなる節目の年であります。引き続き情報通信市場やインフラ産業の動向に対応していくためには、新たな収益の柱を構築することが急務となっており、新しいビジネスへのチャレンジ、首都圏ビジネスのさらなる拡大、プロフェッショナル集団を目指した人材育成など、具体的な目標を設定しつつ全社一丸となって、「企業理念」(図1)と「行動指針」(図2)を掲げて、日々の業務に取り組んでいるところであります。

一方で、協力会社との連携が足りず、現場マネジメントが施工班まかせになっている面もあり、人身事故や設備事故を続けて発生させていることから、再発防止へ向けた取組みの早期定着が求められています。

2. 安全・品質管理体制の強化

株式会社SYSKENでは、NTT事業部門だけではなく民需系事業部門も含めた全社的な安全推進や施工品質の向上へ向け、安全品質管理本部体制をとってNTT本部、施工本部、営業本部、地区安全品質管理部と連携し取り組んできているところです。

具体的には、構造改革ガイドラインに定められた安全施工サイクルの確認や、毎月各県域で開催される安全品質会議においてSYSKEN支店長をトップに協力会社様経営層にも出席いただき安全パトロール結果やヒヤリハットの発生状況、全数写真検査やOptos補正状況の共有、今現場で困っている事項等についてディスカッションを行うことで一体感のある取組みとしています。

3. 重大事故からの学び

平成29年の7月に大分エリアのサービスオーダー工事において人身転落事故を発生させてしまいました。要因として、基本動作の不徹底以外にも、現場における施工

環境の確認や安全確保に関して「現場まかせ」となっていたところがあり、これらの改善を図るために以下の取組みをスタートしました。

(1) 工事前に危険作業の把握を可能にする仕組みの確立

サービスオーダー工事の光ファミリータイプおよびメタル設備の有派遣工事において、従来の表形式のオーダー(図3)をEiVANCE-SOシステム(エイバンスーエスオー:弊社独自開発システム)のマップ機能を利用して、オーダーごとに配線柱、引込柱/お客様宅をビジュアルに表示し、引込線の新設・撤去に伴う道路横断等の危険箇

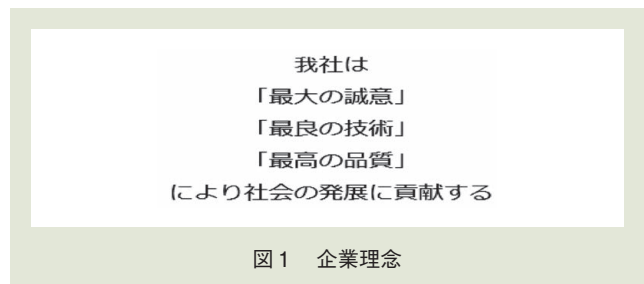


図1 企業理念

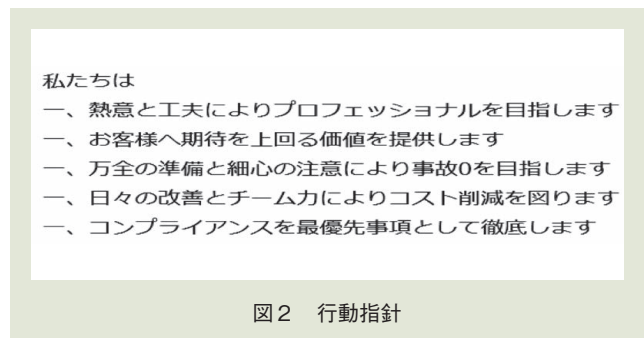


図2 行動指針



図3 従来の表形式のオーダー



所を事前に確認・把握し、施工環境に見合った交通誘導員を手配し安全確認を実施したあと、施工班に引き継ぐことで作業の中断などなく安全に作業ができるようになりました（図4）。

(2) 現地作業時にSYSKENと施工班による2WAYでの安全確認の実施

サービスオーダー工事において、作業内容変更有無、道路横断等の危険箇所での作業（写真1）や高所作業車が使用できない場所での作業（写真2）について現場から送信された写真と問診（図5）によりSYSKENと施工班の双方で2WAY確認し、安全確保をできるようにしました（図6）。

また、EiVANCE-SOシステムを活用し作業開始と作業終了時刻を確認し、作業所要時間を把握・分析することで、作業効率に優れた施工班の取組み等を他の施工班へ水平展開することができ施工班全体の効率向上へつな

げています。

なお、本取組みについては、同様な作業が想定されるNTT設備の保守部門においても合わせて取組みをスタートしております。



写真1 道路横断箇所



写真2 高所作業車が使用できない場所



図4 EiVANCE-SOによるビジュアル表示

リアルタイム確認		リアルタイム確認		
・ 業務式確認表及び施工班での作業を実施する時		・ 業務式確認表及び施工班での作業を実施する時		
・ 道路横断での配線作業を実施する時		・ 道路横断での配線作業を実施する時		
問診項目	NO	問診内容	はい	いいえ
1	○	オーダー通りに工事は可能か？ 問い合わせの場合はエラー発生から連絡させる	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	○	高所作業車の使用できるか？ 使用できない理由を記入	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	○	道路横断箇所か？	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
4	○	指定場所か？ 問い合わせの場合は「向へ」	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
5	○	道路横断箇所か？	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
6	○	ガードマンに不足はないか？ [区画]	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
7	○	高所作業車を使用しない昇柱箇所はあるか？ [区画]	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
8	○	昇柱箇所は業務式昇柱機が使用可能か？ [区画]	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
最後に確認すること（昇柱機）				
<input type="checkbox"/> バケット車が使えない場合は優先して使用を！ <input type="checkbox"/> 業務式昇柱機のフックを確実に確認！ <input type="checkbox"/> 図、指示書にはフック確認を確実に！ <input type="checkbox"/> 共有機の場合は検電を確認を実施！ <input type="checkbox"/> 作業箇所毎に保安確認、工事着陸の設置を実施！ <input type="checkbox"/> 工事内容が変わったらSYSKENへ連絡！				
完了確認	完了		不備あり	

図5 問診チェックシート

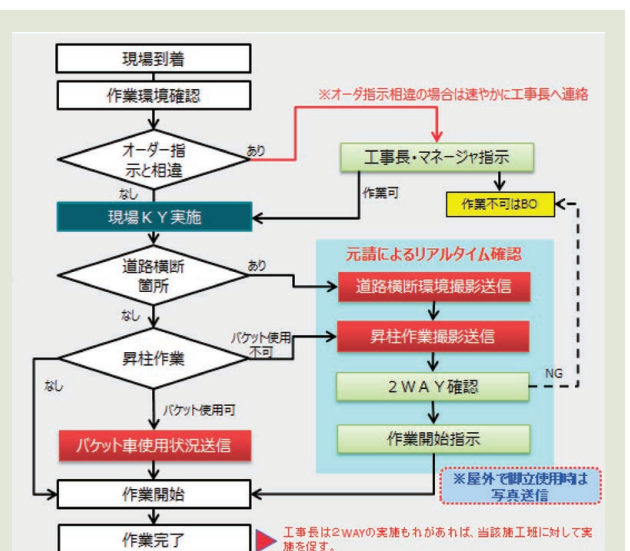


図6 2WAY実施フロー

(3) 安全確認実施者による不安全作業防止の取組み

協力会社施工班において、班内で班長以外に安全を確認する「安全確認実施者」(写真3)を指名して、施工前の安全策実施状況の確認を行うことで、安全に作業が開始できる環境をつくり、不安全作業防止を図っています。

また、本取組みはアクセス系施工班を中心に導入を図り、班員全員の安全意識・危険感受性の向上や、安全確認実施者の次期班長としての意識付けにも貢献してきているところですが、今後はユーザ系での浸透を徹底していきます。

【確認事項】

- (1) 車両の駐車状況 (前下がりに駐車)
- (2) 車両のサイドブレーキ状況
- (3) 輪止め状況 (運転手にて実施)
- (4) 保安施設設置状況 (工事予告板、カラーコーン等)
- (5) ボイスKYの実施 (実施もれのないよう注意を促す)
- (6) 施工前写真送信

※上記内容を全員もしくは役割分担で行い、最終確認を「安全確認実施者」が行う。

4. 「現場の声」収集と早期回答による満足度向上

これまでの施工現場における保安施設設置状況や指差し呼称の実施状況確認を主とした安全パトロールにとどまらず、現場での施工班の困りごとや要望についてヒヤ



写真3 安全確認実施者



写真4 安全パトロール時の「現場の声」収集状況

リング(写真4)を行い、いただいた声に関しては目標として2週間以内での回答を実施(回答が長引く場合にはその旨一次回答を実施)するようにしています。

具体的な改善事例として、施工環境改善の観点では夜間帯工事において建柱車を移動させる際、後方が非常に見難いという意見に対し路肩灯を取り付け安全性を向上させたり、電柱へ腕金やバンド類を取り付ける際に使用していたラチェットレンチをトルクに優れたインパクトレンチに変更することにより、金物取付時間の短縮につながるなど、施工者から高い評価が得られています。

また、施工効率向上の観点からは道路横断箇所における一束化設備の移架や添架物が輻輳した箇所での建柱等のヒントを持ち帰り、優良施策として社内への水平展開を行っています。

これにより、SYSKENグループトータルでの品質向上やスキル向上、さらには協力会社との信頼関係の増進に貢献できると考えます。

5. やっててよかった安全対策体験集(ヒヤリハット集)の発行

全国各地で転落等の重大人身事故が発生しており、SYSKENにおいても例外ではなく平成29年は人身事故と設備事故を発生させています。また、交通事故に関しても平成29年度は平成28年度に比べ多発している状況です。これらの事故は本来実施すべき安全対策が欠如していたことにより発生した事故であることから、社内システムのヒヤリハットに登録された「安全対策をきちんと実施していたおかげで事故を免れた事例」について収集を行い、貴重な体験を広く社員や協力会社に伝え、安全対策の重要性を身を持って認識してもらうことを目的に、「やっててよかった安全対策」体験集3号(図7)



図7 「やっててよかった安全対策」体験集3号



写真5 「安全運転10則カード」の取付け

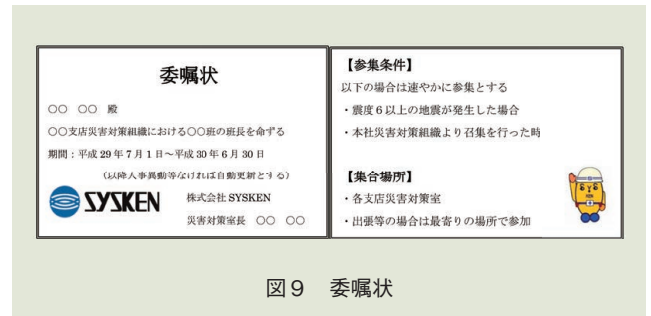


図9 委嘱状



図8 緊急MYカード

の作成を行いました。

今回の新たな取組みとして、工事ボリュームが増えてくる基地局やアンテナ工事に関わる体験談の数を増やしたり、「民需工事」「情報セキュリティ」「安全運転」の3部門に関するジャンルの体験談を新規追加しました。また、社内システム上からも自由に閲覧できるようにしました。

6. 交通事故撲滅へ向けた取組み

平成29年度は車両運転中の交通事故が多発しており、安全運転を促す取組みとして、「安全運転10則カード」の業務用車両内への貼付を実施しています。

貼付する場所は、運転中に邪魔にならず、運転する前に必ず「見る！」事が可能なサンバイザーに取り付け(写真5)、目的地に到着後、車両を駐車し、車両を離れる際は必ずサンバイザーを下ろすことにより、安全運転の注意喚起を図り加害事故“0”を目指しています。

7. 災害・事故への備え

(1) 緊急MYカードの配布

一昨年の熊本地震災害の経験を踏まえ、①地震にあった場合の対処、②地震への備え、③安否確認、④津波警報が発表された場合の対処、⑤交通事故に遭った場合の

対処についてコンパクトにまとめ、携帯カード(図8)にして全社員へ配布・常時携帯させることで、防災意識の向上と災害時の速やかな行動につなげています。

(2) 災害対策構成員への委嘱状交付と情報連携の強化

昨年は、九州北部豪雨災害や台風襲来に伴う通信設備復旧工事にあたりましたが、人事異動等により、タイムリーな情報収集や情報共有ができていなかったところを反省し、災害対策構成員の意識付けの観点からそれぞれのミッションと参集条件等を記載した委嘱状(図9)を交付しました。

また、情報共有ツールとして通常のメールに加えてビジネスチャットのWowTalkを活用することでプッシュ型の情報提供を可能としました。

8. おわりに

平成29年は、重大な人身事故・設備事故の発生に加えて交通事故の多発もあり社長名による「非常事態宣言」を発出する厳しい状況の中、一方で現場と一体となった安全・品質管理の重要性に気付かされた年となりました。

今後も引き続き、協力会社と日頃からコミュニケーションを図り、風通しの良い信頼関係を築いて「事故ゼロ」「さらなる品質向上」の実現を目指してまいります。